

ようこそ石山へ！

「ぶらりいしやま」ガイドマップをご覧くださいまして、ありがとうございます。足を運んでくださる皆様に、「石山ならではの」を発見していただき、楽しい時間をお過ごしいただければ幸いです。

石山の歴史

明治のはじめ、北海道開拓時代。

切り倒した木など限られた資材を使い、急ピッチで行われた開拓。北海道の厳しい冬、暖を取るための火が建物に燃え移ってしまい、その火が町全体に広がって、大火へとつながることもありました。

町を火災から守るために、開拓使は火に強い建材である石を探し、豊平川のそばに最適な石を発見しました。それが現在「札幌軟石」と呼ばれる石です。（地元では「石山軟石」と呼ばれています。）

本格的に軟石採掘が始まると、宮城県や福井県、栃木県などから技術を持った石工が、雪が降るまでの間出稼ぎに来ていたようです。その後、徐々に定住者が増えていき「石山」の町ができていきました。

未開の土地で知らない者同士が支え合う心、挑戦する心、応援する心、平成の現在も、その魂は受け継がれており、地域住民が一丸となって「あったかいまちづくり」を目指しています。

石山のおすすめ 札幌軟石 編



A 石山緑地 (旧石切場)

札幌軟石の石切り場だった場所を再生した公園で、かつてここで軟石が切り出され、道内各地へと運ばれて行きました。軟石の壁には今もはっきりと石屋の「屋号」が刻まれ、当時の面影を偲ぶことができます。平成26年に初めて行われた「札幌景観総選挙」で、市民投票によって石山緑地が第1位に選ばれました。



B ぽすとかん (旧石山郵便局)

昭和15年に建てられた旧石山郵便局は昭和48年、その役目を終えました。平成9年の道路拡張工事の際、沿線にあった石積み建築物の多くは、解体されてしまいましたが、この建物は伝統的な曳家(ひきや)を行い、数メートル後に移築され、新たに「ぽすとかん」と名付けられ石山のシンボリック的存在となりました。



C 石山神社

札幌軟石の採掘にあたった人々の安泰を祈願して、それぞれの故郷の氏神や、職業守護の神を祀っていたのがはじまり。現在の主祭神は天照大御神。軟石で作られた鳥居や狛犬、神輿は石山ならではの。鎮座130年を記念し、伊勢神宮の御用材を用いて神殿を改修。南区では唯一神職が常駐する神社です。

店舗に軟石を使っているお店

